

昨今の日本語に思う

日ごろテーマを与えられて文章を書くことを生業としているので、この「図書館だより」のように自由にお書きくださいと言われると困ってしまう。それは書くことが無いからではなく、あれもこれも書きたくなってしまふからだ。この文章にたどりつくまでに既に内容の異なる二つの文章を書き上げた。どれも少々硬いので、昨今の日本語について思うところを書いてみたい。

今年も多く卒業生たちがこの学園を巣立っていった。若者たちの努力の後の喜びの涙はいつ見ても美しい。これから訪れるだろうさまざまな人生の荒波を乗り越えて、正々堂々と歩んで欲しい。その卒業パーティーで一コマ。卒業生から希望されて一緒に並んでツーショットの写真を撮ったあとの一言。「先生、チョーやばい。やばいよ全く。」

私の頭には一瞬「やばい」という言葉がこびりついた。そしてこの写真をネタに脅されるかもしれないとか、若いころ経験したストーカーの恐怖とか、とにかくやばいことが走馬灯のように頭をよぎった。しかしその卒業生はいたって嬉しそうで、先生ありがとうと言いながら握手を求めてきた。どうやらやばいことにはならないらしい。それならどうして「やばい」ののだろうか。自宅に帰り家族とその話をしていると、息子から「やばいは嬉しいときにも使うんだよ。」と聞かされた。私が知っている「やばい」は危険を示唆する言葉だけど、今では喜びが大きくなってしまって自己制御がきかなくなるときにも使われることを知った。

そんな息子は時々こんな言葉を使う。「あの CD は全然 OK だったよ。」私には CD が面白かったのかそうでなかったのかの判断がつかないが、どうやら「全然」という言葉も、現在では否定的な言葉と共に使われるだけでなく、肯定的な言葉とともに強調する言葉として使われるらしい。

ある日ニュースを見ていて気になった言葉がある。どの放送局も平気で行政のことを「国(くに)」と呼ぶ。

「国は被害者の家族との和解に応じる姿勢を示しています。」

注意をして聞いていると、「首相」や「内閣」は明確に選んで使われていることが多いのだが、各省庁(国家公務員)が絡んでくると「厚生労働省のスポークスマン(報道官)」といったような長いフレーズを「国は」と省略する傾向にあるようだ。因みに辞書を引くと、「国」を国家行政の意味で使うのは地方行政と対比する場合だけで、各省庁のことを「国」と省略して表現する事例は示されていない。したがって私には、アナウンサーが「国は」と言うたびに「お上(かみ)」は「国」と言っているように聞こえ、一人憤慨している。「国」は私たちのことであり、国家公務員だけを「国」と呼ぶのは時代錯誤なのではないだろうか。

今年で10年になる「学生による授業評価アンケート(1年生諸君には耳慣れない言葉だが、教員が君たちの学習成果を評価するように、諸君は教員が行う授業を評価できる)」には一定の傾向が見られる。大まかにアンケート結果は教員の年齢に反比例し、若い教員が高い評価を得ている(これはどの大学でも同じ傾向である)。その理由は「年輩の先生が使う言葉がよくわからない」とか「黒板に書かれた漢字が読めない」ということらしい。

教員側が戸惑っているばかりでは、せっかくの専門知識が世代間の語彙(ごい)のギャップというつまらない理由で学生に伝わらないという現象が起きてしまう。依然として「基礎的な語彙力を持たない人は大学に来るべきではない」と考える人もいるが、それでは何の教育効果も上げられないことを最近では第三者評価機関(大学とは全く利害関係の無い第三者が行う大学評価のこと)が指摘している。私たち教員は、学生の皆さんが使う言葉をまず理解し、そしてその言葉で語りかけなければならないのだと思う。

しかし、それは教育の水準を下げることにイコールではない。博士のことを英語では Ph. D. (ピー・エイチ・ディー)と呼び、Ph は phylosophy(哲学)を意味する。もともとは理論系の学術研究を修めた人に与えられる称号であったが、今では博士の総称として使われているのはなぜだろうか。学問は最終的には人間の存在を理解する方法と手段であり、哲学の目的に合致するからだとは私は考える。耳慣れない言葉も自らの言葉に翻訳し、学生と教員の双方が言葉のキャッチボールをつみ重ね、哲学するところまで高め共通の理解を得たいものだ。

学生の皆さんは教授と過ごす時間が長いほど自然と使う言葉が違ってくる。私の体験では「先生オハヨ」と言っていた学生が、数年後に「学長先生おはようございます。」と言うようになる。学生の皆さんにはせめてこの学園に在籍しているうちに、相手の年齢の関わらず、正確に通じる日本語を学習してほしいと願う。その必要性を実感するためには、まず皆さんが自分よりも年の若い人に何かを教えてみるとよいだろう。

目次

1年生の皆様、入学おめでとうございます	1	
本の紹介	ブランドは広告でつくれない	2
	小説 日本婦道記	3
	フードビジネス成功ノート	4
卒業演習紹介	健康栄養学科	5
卒業研究紹介	情報文化学科	6
	社会情報学科	7
図書情報センターから		8

本の紹介

『ブランドは広告でつukれない』

アル・ライズ、ローラ・ライズ 著

翔泳社 ISBN4-7981-0373-X 定価 1,890 円(税込) (2003.2)

少々古い本で恐縮ですが、PR の意義、意味も絡めてという意味であえてこの本をご紹介させていただきます。著者のアル・ライズは名著「マーケティング22の法則」の共著者でもあるのですが、この本、マーケティングのエッセンスを実にわかりやすく説明してあって、私がサラリーマン時代、新入社員によく薦めたものです。その著者のライズ氏が2002年に上梓したのがこの「ブランドは広告でつukれない」(原題:The Fall of Advertising and The Rise of PR)です。長年広告の世界で飯を食ってきた私には衝撃的なタイトルでしたし、私の勤めていた広告会社でもかなり反感を買っていたことを覚えています。

PR(Public Relations)には様々な側面がありますが、ライズ氏は基本的にはマーケティング畑の人ですから、マーケティング・コミュニケーションの一環としてPRを捉えています。つまり、モノを売るためには広告よりもPRのほうが効果的だというのが彼の主張です。その理由として、新しいブランドを市場に導入したり、古いブランドの再活性化を図る際に鍵となるのは「信頼性」であり、それは広告ではなくPRのみが作ることが出来るのだということです。確かに広告主の言い分をストレートに伝える広告よりは、テレビや新聞など、媒体社といういわゆる「第三者」が間に入るPRのほうが、信頼性では勝っています。

また、広告は「創造的(クリエイティブ)」たらんと思うがゆえに、製品の本质を伝えそこなうことがまゝであると指摘しているのですが、広告は馬鹿ウケしたのにモノはあまり売れないなんてことがあるのは事実です。ナイキやバドワイザーが広告賞をとりまくっているのに、売り上げは上がらないということも実際に起きています。だからといって著者は広告の役割を否定しているわけではなく、PRと広告をうまく使い分けることによって、マーケティングを成功に導くことができるというのが彼の主張です。広告もPRも一長一短があり、それをいかに組み合わせるコミュニケーション・プランを作っていくか、というのがブランド・マネージャーの腕の見せ所なのかもしれません。モノを売るためのコミュニケーションはどうあるべきか、広告とPRの違いはなにか、というようなことに興味をお持ちの方にお勧めしたい本です。



【本の紹介者】

栗林芳彦: PR 学科長 准教授



本の紹介, 原稿募集中!!

このページに掲載する本の紹介文を募集しています。お気に入りの本を紹介して下さい。詳しくは、図書館カウンターまで



『小説 日本婦道記』

山本 周五郎 著

新潮文庫 ISBN978-4-10-113408-6 定価 500 円(税込) (1958.10)

山本周五郎の初期代表作。「松の花」「箭竹」など短編時代小説 11 編を収めている。巻末解説によると、1942 年から 46 年にかけて雑誌『婦人倶楽部』『文藝春秋』にシリーズ 31 編が発表された。山本周五郎はこの作品で直木賞に推されるが、受賞を辞退している。新潮文庫収録にあたり、作者自身が 11 編を選んだという。以来、92 刷を重ねている。

娘、妻、母...と、信念を貫く女性たちの清々しさ、強さを描いて読者の胸を打つ。中でも、私が好きな「箭竹(やだけ)」「墨丸(すみまる)」は、今回、三省堂一宮店で買い直し、読み返してみると、愛知県を舞台にしていた。2作とも、水野家岡崎藩の初代、忠善にまつわる女性を主人公にする。山本周五郎は、水野忠善とその周辺の人物像に興味を持ったようで、他にも何作かの素材にしている。

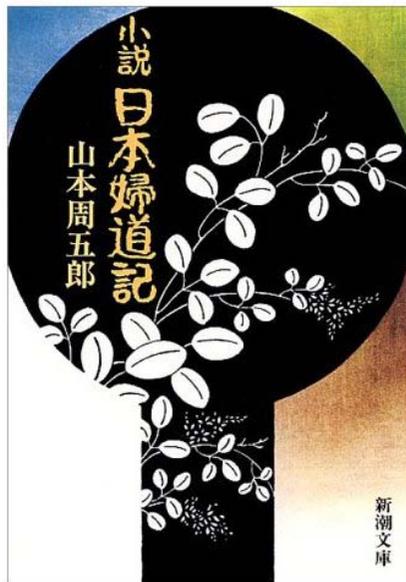
「箭竹」は、水野家書院番の妻「茅野みよ」の物語。夫は、お役目中の私闘の果てに、みよと2歳の息子を残して切腹する。妻子も追放処分を受けるが、みよは、亡き夫が仕えた主家、主君の近くにいたいと舞い戻る。駿河・田中から、三河・吉田(豊橋)一岡崎と、水野忠善の転封にも密かに付き従う。

やがて、暮らしのために始めた矢の作製で腕を上げるようになると、矢に「大願」という銘を彫り始めた。いつの日か主君の目にとまり、息子が世に出る機会を得させたい、という母心だった。

「大願」の矢は、諸大名の献上品の一つとして將軍家に届けられ、その飛び心地の良さに感服した將軍家綱が、出所を調べるよう命じるところからストーリーが始まる。みよの存在が知れ、息子が水野家に召し出されるハッピーエンドとなる。

「墨丸」は、父が水野忠善に諫言、切腹した「小出お石」の物語。家中の者が5歳のお石を引き取り、出身を伏せたまま娘として育てる。11 歳の「兄」は、色黒、赤毛のお石にがっかりするものの、友人たちが「お黒どの」「烏丸」とあだ名するのを哀れみ、やや雅やかな「墨丸」というあだ名をつけて守ろうとする。

お石は、自ら「墨丸」を雅号にして「母」を驚かせ



かせ、兄に胸の痛みを感じさせるが、やがて琴の名手となっていく。ある日、友人の妹たちとの琴の演奏の場で、兄は、いつの間にか美しくなったお石に目を見張る。下男や下女にも、優しい心配りをする女性になっていた。兄は彼女を妻に迎えたいと願うが、それを知ったお石は、京で琴の修業をしたいと家を去って行く。

母は怒り、兄は釈然としないまま、27 年の歳月が過ぎ、2 人は偶然再会する。お石も、兄を恋しく思っていたが、切腹者の娘が妻になることで、いつの日か兄を窮地に陥れてはいけないと身を引いた。そうした事情が、初めて明かされる。2 人のその後は、ストーリーにはない。

思いを貫くことや献身は、本来、反対給付(みかえり)を期待しない。男女に限らず、そのこと自体が本人に深い満足感を与えるだけだろう。だが、広い世の中には、それを見ている人がいるかもしれない。そんな読後感を与えてくれる作品だと思う。春の一夜、学生諸君にも気軽な読書をお奨めしたい。

【本の紹介者】

宮地 忍 : PR 学科 教授

『フードビジネス成功ノート』

高桑 隆 著

同友館 ISBN978-4496041907 定価 1,890 円(税込) (2006.9)

この本は僕達フードビジネス学科2年の吉田ゼミで使用している本で、フードビジネスにおける基本的な事柄から著者が今まで経験してきたものを分析した結果まで載っており、これから飲食店経営に携わりたい人、又は興味がある人には大変参考になる本です。

著者は日本の外食産業(特にファミリーレストラン)の勃興期からフードビジネスに携わっており、また商業大国アメリカのフードビジネスサービスも勉強しているため、主観的考え方はもちろん、客観的な広い視点から見ているのでとてもわかりやすく、理解しやすいようになっています。

では、この本で伝えたいこと、そしてこの学科にいる者として重要だと思ったことをいくつか紹介していきたいと思います。

現在わが国の外食市場規模は6年連続マイナス成長で外食産業全体は確実に減退傾向を示しています。しかし、そんな中外食ベンチャー企業は急激な勢いで伸びています。それは、外食ベンチャー企業は大手外食企業が気付かない隙間を狙って果敢な挑戦をし続けているからです。けれども、これらの外食ベンチャー企業の過半は数年で表舞台から消えていってしまいます。なぜなら、急速展開ゆえに現場の店舗管理、管理能力の規模拡大に追いつかず、あえなく破れ去っていくという事実があるからです。それではそれを改善するには果たしてどうしたらよいのでしょうか?間違いなく、各店ごとの競争力をアップさせる店舗マネジャーの育成にその勝利の鍵があると著者は考えています。

そしてその鍵と言うのは大きく分けて4つあることに気がつきました。

まず一つ目は、やはり外食産業は基本的にパートアルバイト従業員すなわち、「ヒトの手」によって成り立っています。ですからこの人手をたくさん使う産業においては、従事するヒトのレベルが問題になります。‘レベルの高いヒトを育てる’ことができるかどうかは、ひとえに現場マネジャーの人材育成如何にかかっています。またパートアルバイト従業員はその店の店長以上には成長しないと聞いたことがあります。だから

人手を生かすも殺すもマネジャーのやる気と教育次第なのです。

そして二つ目として、飲食業経営の原則に「QSC」という原則があります。著者はこの「QSC」にプラス「A」を加えて、「QSC+A」を飲食業経営の原則と呼んでいます。「Q」とはクオリティ=品質。料理のことです。「S」とはサービス。ホスピタリティある接客のことです。「C」とはクレンリネス=清潔・管理のことです。そして著者が新に考えた「A」とはアトモスフィア=雰囲気。‘感じのいい店だ’とか‘美味しくさうだね’とか、言葉ではうまく表現できない良い雰囲気のことを言います。またこの「QSC」が完璧にできている店には、「A」が良い雰囲気として誕生してくるといえます。しかし、逆を言えば全てが完璧でお客様を満足させることが出来なければ「A」が生じず繁盛店とは呼べないのです。ですからその全てを管理するトータルな真のマネジメントこそマネジャーの役割なのです。

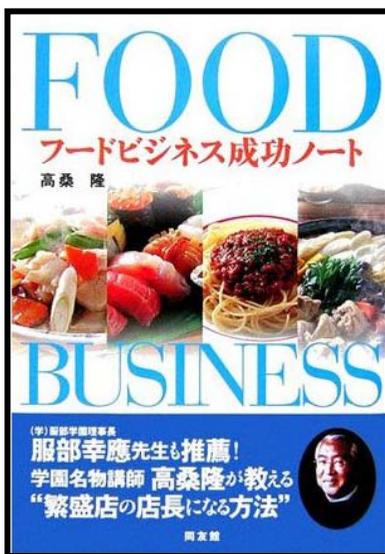
そして三つ目は情報力です。店舗マネジメントは予測業であると言われています。予測とは、起こりうることに對して「仮説」をたて、具体的な「実践」を行い、その結果を「検証」し、分析してまた次の「仮説」に活かすという知的作業のことです。この予測に影響を与えるのが「情報」であるのです。情報には、内部情報と外部情報があり、これらの情報を素早くキャッチして、機敏な対応がとれるかどうか日々の店舗マネジメントのなかで問われるのです。

そして最後の四つ目は、この本で著者が最も強く言っている「数値」です。外食業に携わる人には、計数とか数値といったものを、苦手にする人が多いようです。しかし、売上げや利益と言ったものを出し目標売上高・予想利益などを出すにしてもどうしても使わなければいけないのは数値なのです。だから、この数値と上手く付き合い、数値に強いマネジャーになることが長く生き残るポイントなのです。

このようにザックリマネジャーの重要さとこの本の内容を紹介しましたが、まだまだ著者が伝えたいことや、具体的な例などが載っているので興味のある方は是非一度読んでみることをオススメします。

【本の紹介者】

小林孝行：フードビジネス学科 3年



健康栄養学科

卒業演習紹介

健康栄養学科の学生は、4年生になると「卒業演習」の授業を受講します。3年生まではA・Bクラスに分かれて約40人の単位で授業を受けることがほとんどですが、4年生からは、各卒業演習担当教員の指導のもと、最後の学生生活を送ることになります。この演習を通して、相手への思いやりや自己表現する力を持った知性ある心豊かな人間性を備えた人間として成長してほしいと思います。健康栄養学科では13の卒業演習が開講されています。では、どのような卒業演習が行われているか、図書館だより2007年4月第19号で紹介されなかった代表的な演習を紹介したいと思います。その他にも、専門性を追求した魅力ある演習ばかりです。学年を問わず、各研究室の雰囲気を見に行ってみてはどうですか！どこの研究室も皆さんをあたたかく迎えてくれることでしょう。

■栄養学ゼミ 青山頼孝教授【栄養学研究室】

栄養学研究室においては、食事成分による体内代謝の変動を調べることで、および食品成分の測定を行い、栄養学的考察をします。具体的には食事シクロデキストリン、アスタキサンチンあるいはトレハロースを摂取した時のミネラル代謝、肝抗酸化系酵素活性の変動を測定します。新規野菜の硝酸イオン、亜硝酸イオン、窒素一たんぱく質変換係数の測定、および漬物の食塩量の測定を行います。

■食品衛生学ゼミ 渡部宏臣教授【食品衛生学研究室】

当ゼミの基本コンセプトは“食の安全”です。食中毒事件以外にも、食品偽装、加工食品への毒物の混入、健康食品被害など“食の安全”を脅かす食品事件が次から次と起こり、消費者を不安にさせています。卒業演習では、“食の安全”に関わる内容でゼミ生がテーマを決め、具体的に情報を収集・分析し、“食の安全”について考えます。平成19年度の演習テーマは、「健康食品による健康被害」、「学校における食物アレルギー」、「最近の食中毒の特徴」、「輸入食品の安全性」でした。

■給食経営管理学ゼミ 石川豊美准教授【給食経営管理学研究室】

「伝統食や郷土食に見られる薬膳効果の検討」

日本には古くから季節や農事につわる伝統食や郷土食があり、行事にかかわりながら様々な季節の食材と関わってきました。伝統食や郷土食の食材の組み合わせには薬膳の考え方に共通の部分がたくさんみられることから、本ゼミでは伝統食や郷土食のレシピを集め、その薬膳効果について検討し、事業所や福祉施設で活用できるよう大量調理への展開を考えます。

■調理学ゼミ 村上洋子助教【臨床栄養研究室】

「食のコーディネートによる献立による検討」

同一の献立を食器やクロスなど食空間の演出による違いを検討し、献立の品質管理を行い、卒後のメニュー提案時の活用資料になることを目指します。

「料理形式別のメニュープランニング」

卒後の管理栄養士には、メニューマネージメントが求められる中、その基礎資料として和・洋・中の料理形式別のメニュープランニングを行う。調理科学の基礎と応用を駆使しながら立案・食事計画・作成し、レシピ集としてまとめることを目的とします。

■基礎臨床栄養ゼミ 橋本賢助教【臨床栄養研究室】

「集団栄養指導における行動変容に及ぼす諸因子の解明」

臨床栄養分野において、大学と地域連携を重視した演習を行うべく、地元の総合病院における集団栄養指導バイキング教室を企画しています。この教室に参加される患者様と触れ合っ、行動変容に必要な諸因子を、実体験を通してまとめることを予定しています。また、臨床栄養関連の研究会やフォーラムに積極的に参加し、専門的な知識を習得していただきます。

卒業研究紹介

去る3月17日、平成19年度の卒業研究の中から卒業研究学長賞として推薦を受けた研究に対して、研究者の表彰と賞品の授与式が行われました。すべての研究を紹介したいところですが誌面の都合上、情報文化学科は各研究室につき1件ずつ計6件、社会情報学科は6件すべての研究を紹介し、指導教員からのコメントを掲載いたします。

■研究テーマ：各種印刷用紙の画質評価

平野 光裕

現在、多数の印刷用紙が市販されていることに着目し、8種類の印刷用紙の特性を評価することを目的とした。赤系30色、青系30色、緑系30色を用いたカラーの再現性、256階調のグラデーション画像を用いたグレーの再現性、幅の異なるストライプ状の画像を用いたグレーのシャープ性の実験を行った。結果は、多くの分析方法でまとめ、用紙の特性を明らかとした。オリジナリティの高い研究であると評価する。(指導教員:松原友子准教授より)

■研究テーマ：立体3DCGアニメーションの制作

伊藤 直紀

卒業研究「立体3DCGアニメーションの制作」は、Shade を使って三次元コンピュータグラフィックスによるアニメーション作品を制作し、両眼視による立体映像としたものである。作品製作にかける情熱と根気強さ、自らCGの製法や立体視の方法について探求し、妥協することなく完成度を追求する姿勢は正に賞賛に値する。(指導教員:長谷川聡教授より)

■研究テーマ：白兵戦における数の優位性に関する研究

水谷 嘉宏

本学生は、Java 言語を使って白兵戦のシミュレーションプログラムを制作した。さらに自軍敵軍の戦力差に関してパラメータ設定を様々に変更し、数の優位性(1.04 倍の戦力差以上で顕著に表れる)を示すデータを得た。シンプルなモデルではあるがモデルの作成からプログラムまで全て自作し、卒業研究として一定の水準に達したと考え推薦する。(指導教員:田近一郎准教授より)

■研究テーマ：(オリジナル作品による)音楽アルバムの制作

筧 誉史

筧君は、コンピュータ音楽の制作に情熱的に取り組み、2年間で、数10曲以上の作品を制作しました。また、作曲のみならず、ミキシングやマスタリングなどの専門的技術を身につけ、後輩に指導するなど、ゼミや授業に対する貢献の大きい学生です。さらに、作品発表コンサートでは、実行委員長をつとめるなど、多大な活躍をし、本ゼミに対して大きな希望を与えたので、ここに推薦いたします。(指導教員:吉田友敬准教授より)

■研究テーマ：ミュージックビデオ-有心論

平野 慧

この作品は、Illustrator で作った大量の静止画像をビデオ編集ソフトで楽曲と組み合わせで作られたミュージックビデオ作品である。構想から完成までに半年以上を要した大作で、実写ではなく、すべて Illustrator によるオリジナル画像で作り込まれた所が評価できる。完成度の高い良い作品である。(指導教員:森博教授より)

■研究テーマ：騒音ときれいな音との特徴解析

岸野 曜

綺麗な音と不快な音を録音し、その特徴を周波数解析した。また、音の不快の度合いを表す一つの尺度(不快度)を提案した。録音した音の不快度を算出したところ、概ね主観的な不快の度合いが表現できていることを確認した。本研究に対し、彼は計画的かつ積極的に取り組み、主体的に研究を遂行した。(指導教員:横田正恵准教授より)



社会情報学科、情報文化学科の受賞者 ➡

卒業研究紹介

平成 19 年度卒業研究学長賞を受賞した 6 件の研究を紹介します。

■研究テーマ：ファーストフード店の経営戦略について

安藤信一

ファーストフード店は生き残りのためにあらゆる販売戦略を立てている。特に、低価格化の戦略は、ハンバーガー店のみならず、あらゆる業界の影響を及ぼしていった。卒業研究では、経営戦略の全く異なる日本マクドナルドとモスバーガーを比較し、これからのファーストフード店のあり方を検討した。アルバイトでの経験を生かして執筆された努力のあとが見られる論文である。(指導教員:吉田洋教授より)

■研究テーマ：スキー場経営の現状と今後の展望

藤村考三

ピーク時に 1,800 万人もいたといわれるスキー人口はバブル崩壊後 700 万人にまで減少しスキー場を取り巻く産業の死活問題が起きている。卒業研究では、この現状について全国の有名なスキー場のスキー客のいり込み数のデータをもとに分析し、本学の男女学生のスキー及びスノーボードに対する意識調査から今後のスキー場経営の将来の展望を考察した。本学学生へのアンケート調査を基に十分な考察がなされている。(指導教員:吉田洋教授より)

■研究テーマ：電子マネーについての一考察

山田健太

この論文は、電子決済の増加に興味を持ち着手したものである。内容としては、最初に、通貨と電子マネーとの関連性を明らかにする必要があることから、電子マネーの定義を示している。次に、電子マネーの始まりとその発展の流れを勉強し、現在の電子マネーによる決済システムを整理している。そして、最後に「セキュリティ確保の限界」「汎用性」「価値保障」など現時点における電子マネーの問題点を整理し、対策を示すことでその発展性を考察している。たくさんの資料を良く整理・理解し、論文自体も構成がしっかりとしたものであった。(指導教員:関川靖准教授より)

■研究テーマ：English for Travel Abroad

Rie Nakai

Rie Nakai's work is not a work of research as such, but rather a radio play in English entitled "Rie's Study in London." It is about a (fictional) homestay / study trip lasting three weeks she took to the U.K. It consists of over 50 scenes, composed of conversations between the characters, with interspersed narration. It is outstanding for the original way the conversations are worked into a coherent and natural story, and the skillful use of the narration to the scenes together.

[中井さんの卒業研究は、イギリスでのホームステイを舞台にしたドラマの台本である。50のシーンで繰り広げられる会話とナレーションは非常に自然な英語で書かれており、完成度の高い作品となった。] (指導教員:ジェームズ・ランドカマー准教授より)

■研究テーマ：近年のわが国における食料問題の現状と今後について～フードシステムの視点から～

菱田次孝

この研究は、近年わが国における食の問題を、食料の川上(農畜水産業)、川中(食品卸売業・食品製造加工業)、川下(食品小売業・外食産業)、そして消費者からなるフードシステム全体でとらえ、その各過程に問題の発生原因や背景を検討しています。そこから得られた結論として、わが国自給率の向上とそのための地産地消や食育事業の推進、食料廃棄物問題の改善などを提唱しています。(指導教員:須藤准教授より)

■研究テーマ：バイオ燃料は人類を救うか？

古川由樹



本研究は、近年注目されているバイオ燃料が食料問題やエネルギー問題などを解決する有効な手段となりうるかどうかを特に、バイオ燃料の中でも広く利用されているバイオエタノールを中心に考察しています。より具体的にはバイオ燃料の原材料やその分類、そしてその利用状況として、日本や諸外国の事例を取り上げ、バイオ燃料の利点や食料生産、自然環境への影響について考察しています。(指導教員:須藤准教授より)

← 授賞式の様子 (H20年3月17日)

図書館情報センターから

OPAC システムのご案内

図書館で目的の資料を探す時、みなさんはどうしていますか？書棚を見ながら地道に探している人。図書館に入りカウンターで所在を尋ねる人。どのように探しても、最終的には目的の資料の所蔵や所在を確認することはできるでしょう。でも、少しでも効率よく目的の資料の所蔵や所在が自分で確認でき、資料を手にすることができたら、と思いませんか？

図書館には、OPAC という蔵書検索システムがあることをご存知ですか？図書館を利用している、OPAC を利用している人は、まだまだ少ないのではないのでしょうか。本学では、図書館内の専用端末はもちろんのこと、学内のネットワークを利用できるどのパソコンからでも OPAC へ接続することができます。まずは、図書館ホームページを閲覧してみてください。OPAC の利用方法の詳細や開館日、その他いろいろな情報を知ることができますと思います。

■図書館ホームページ

The screenshot shows the library homepage with the following links:

- 開館日(カレンダー)
- 館内の施設について
- 館内の利用について
- お知らせ
- 連絡先所在地
- 図書だより
- 情報機器貸し出しについて
- 学生用メールアドレス使用規定(学内専用)
- 蔵書検索(学内専用)

A red dashed circle highlights the "蔵書検索(学内専用)" link. A blue arrow points from this link to a text box that says "こちらのリンクから OPAC を利用できます".

■OPAC システムのメニュー画面

The screenshot shows the OPAC system menu with the following options:

- 蔵書検索
- 新着照会
- 貸出予約照会

Blue arrows point from each menu item to a text box explaining its function:

- 蔵書検索: タイトル, 著者, 出版社等, キーワードから資料を検索
- 新着照会: 新着資料の照会
- 貸出予約照会: 貸出中の資料の予約
現在自分が借りている本や返却日の確認

平成20年4月
編集：名古屋文理大学図書館情報委員会
発行：名古屋文理大学図書館情報センター

〒492-8520 稲沢市稲沢町前田 365
TEL : 0587 (23) 2400 FAX : 0587 (21) 2844
e-mail : toshokan@nagoya-bunri.ac.jp

